

Pharmaizm

ファルマイズム

株式会社 ファルマ

弘前市北横町 19-1

Tel 0172-37-6016(代)

発行：編集委員会

印刷：小野印刷

■ 第 166 号 ■

全日本民医連 第45回定期総会に参加して

ファルマーツ谷薬局

薬局長 佐藤 真由美

2月25日(金)・26日(土)の2日間にかけて全日本民医連第45回定期総会が開催されました。今回の総会にはコロナ禍ということもありオンライン開催となりましたが、全国から605名の代議員が出席し、この2年間各職場で奮闘してきた取り組みの報告と今後2年間の運動方針について

青森県民医連の会場
(ファルマ弘前薬局会議室)

活発な議論が展開されました。全体討論では51名の代議員から発言がありました。各代議員の発言をいくつか紹介します。コロナ問題では、救急依頼はできるだけ受け入れられるようにしてきたがパンデミック下では1病院だけでは無力であること、電話診療だけでは患者の本当の体調を判断できないこと、フードバンクを数回開催したが開始前からすでに100人超の方が並んでいる現状がありました。外国人相談会を開催したこと、歯科問題では、要介護者の約9割の方が歯の問題を抱えていること、約3割の方が治療していない、人生に寄り添ったケア目標を立て、歯科と介護と共同で口腔ケア指導をしているとのこととです。医師問題では、医師確保のため研修プログラムを見直し心も休める医師の育成に挑戦していく、民医連発展のために外科医は欠かせない、医学生のうちから民医連にふれてもらう取り組みなどたくさん報告がなされました。東日本大震災後11年が経過しましたが、福島第一原発の事故処理はまだ終わりが見えません。ロシアのウクライナ侵攻によって戦争が始まりました。核兵器使用もちらつかせて恐怖による威嚇をし、国際社会を牽制しています。民医連の果たす役割は今後も益々重要性を増していくと思われまます。改めて民医連綱領を見つめ、私たちがやるべきことをしっかりと継続していくことが大切です。

福島第一原発事故から学ぶこと ～甲状腺内部被ばく～

藤代薬局 薬剤師 中村 光樹

3月6日(日)Zoomにて、東京新聞特報部の榊原崇仁氏の講演「福島第一原発事故から学ぶこと」に参加しました。福島では甲状腺異常者が少なくないといわれていますが、原発事故と関係があるのではありません。約50人の関係者に取材をしたことでした。1986年にチェルノブイリで起きた原発事故では被災した子どもたちの間で甲状腺がんが多発したとされています。福島第一原発事故から2週間ほどたった

を立て、歯科と介護と共同で口腔ケア指導をしているとのこととです。医師問題では、医師確保のため研修プログラムを見直し心も休める医師の育成に挑戦していく、民医連発展のために外科医は欠かせない、医学生のうちから民医連にふれてもらう取り組みなどたくさん報告がなされました。東日本大震災後11年が経過しましたが、福島第一原発の事故処理はまだ終わりが見えません。ロシアのウクライナ侵攻によって戦争が始まりました。核兵器使用もちらつかせて恐怖による威嚇をし、国際社会を牽制しています。民医連の果たす役割は今後も益々重要性を増していくと思われまます。改めて民医連綱領を見つめ、私たちがやるべきことをしっかりと継続していくことが大切です。

さようなら原発・核燃「3・11」 青森集会「この思いを次世代へ」

本部 工藤 留美

3月13日(日)にさようなら原発・核燃「3・11」青森集会がYouTubeで開催されました。福島原発事故から11年が経過し、未だに2万人を超える人が家を追われています。集会では、現在起きているロシアによるウクライナに対する軍事侵攻が続き、ロシア軍が原子力施設への攻撃を行っている問題についても皆さん危惧しておりました。

講演では、弘前市生まれでボランティアの鎌田慧さんが「六ヶ所村の過去・現在・未来」についてお話しくださいました。下北半島には、原発関連の様々な施設が連なるように設置されていて、青森県に集中している核燃サイクルの一連の施設が全て揃っています。

その経緯は、過去に策定された全国総合開発計画による、二セの国策にありその計画が破綻した結果、青森県には莫大な責務が残りました。そこに持ち込まれたのが核燃サイクルとことです。そして、六ヶ所村は多少の雇用、多額の原発マネーを得ていますが、本当に青森県は豊かになり、地域再生になっているのでしょうか。原発マネーに頼らない青森県の産業をどうつくっていくのか考えていくべきだとおっしゃっていました。

私たちは、まず自分たちが住んでいる県のことに興味をもち、きちんとした情報を伝え、青森県だけの問題ではなく、全国の問題として一日でも早く原発をなくさなければならぬと訴え、この思いを次世代にもつなげていく必要があると感じました。



弘前市出身の鎌田慧さん

■甲状腺被ばくとは

- 過去に問題になった被ばく
 - ・チェルノブイリでは甲状腺がんが多発
 - ・そんな状況をもたらしたのは甲状腺被ばく
- 原発事故時に生じた被ばく
 - ・甲状腺被ばくの原因は主に放射性ヨウ素(放射性ヨウ素131)
 - ・飛出しやすく/放出・拡散しやすい
- 甲状腺被ばくの仕組み
 - ・放射性ヨウ素が空気中を舞う/畜産や水産に舞い降りる
 - ・呼吸や食食によって体内に取り込まれる
 - ・甲状腺は甲状腺に集まる性質/放射線を浴びて内部被ばくが生じる
- 原因物質が蓄積するまで被ばくが継続
 - ・放射性ヨウ素の半減期は8日/時間がたつと減る
 - ・2-3ヶ月ではほぼ消滅/その間は放射線を出す/被ばくが継続

東京から講演いただきました

写真紹介

150部以上の資料を配布



「お疲れ様です!」と受験生へ声をかけました

2月25日(金)～26日(土)の2日間、青森民医連医学対大運動が取り組ま



雪の中頑張りました!

れ、25日は本部の館田事務長、26日は本部の工藤留美さんとファルマ弘前薬局の中西菜季さんが参加しました。寒い中でしたが、マスクなどのグッズと一緒に民医連奨学生案内パンフレットを一人ひとりにお渡しし、受験生は快く受け取ってくれました。

22才のわたし

藤代薬局 薬局長 木村 匡宏

当時わたしは大学4年生。毒性学という研究室に所属しCYP1A2の遺伝子発現の調節機構に関わる研究をしていました。詳しいことはよくわからないながらマウスのお腹にハサミを入れては細い血管に針を刺し、謎のピンクの液体を肝臓に循環させては取り出して培養し、合間に関連論文を読むふりをし、教授が帰ると一目散に研究室を出て様々な社交場をめぐっては多くの親睦を深め、次の日寝不足や二日酔いのまま研究室に行き震える手で、またハサミを持って・・・を繰り返す日々でした。

そんな日々の中、研究にとって大事な日に寝坊をして共同研究者にありとあらゆる罵声を浴びせられ、その後1週間くらい口を利いてもらえなかったことや教授の部屋で勝手に銀杏を焼き異臭騒ぎを起こしてひどく怒られたことが思い出されます。当時に戻れるなら同じ生活を繰り返すつもりはありませんが、振り返るとすべてが今の自分の生き方を形づくる大切な貴重な経験であったと思います。

写真は卒業式に同じ研究室の同級生と撮ったものです。現在誰とも連絡を取ってはいませんが、もし今後彼らに会う機会があれば、当時いろいろと迷惑をかけたことを謝りたいです。



研究室の仲間と一緒に（木村薬局長、左奥）

3月12日(土)に弘前市の介護保険をよくする会主催で大阪社会保険推進協議会介護保険対策委員会の日下部雅喜氏による講演がZoomで開催され、ファルマからは5名が視聴しました。テーマは「介護の危機を打開し、介護保障をめざす運動の発展のために」でした。介護保険の現実や介護危機打開に向けての運動課題などをお話しされました。年金は20年間で下がり続ける一方で、利用者負担や保険料が引き上げられることはあつてはならないことだと思えます。さらに、10月から国庫負担を減らし、穴埋めとして自治体と利用者へ負担させる動きがあります。お



会場の様子

話の中でもありましたが、介護現場で働く方々の収入を上げるにあたり、財源確保の部分で保険料や利用料の負担増につながるような国庫負担を増やし、安心してサービスを受けられるよう当事者目線で考え運動をしていくことが大切だと感じました。

写真紹介

就職相談会



お世話になった先生と話す
小田桐薬剤師



ファルマの魅力を熱くアピールする
福井薬剤師

3月5日(土)ファルマ弘前薬局会議室から岩手医科大学主催のオンラインセミナーに参加しました。岩手医科大学大薬学部の学生さんとオンラインでつながり、同大学出身のファルマ弘前薬局小田桐薬剤師と福井薬剤師がファルマの魅力や薬剤師業務などについて話しました。

さるためにも積極的に意思表示や考えをまとめておく大事さを学びました。

2022年度は調剤報酬改定が予定されており、薬局・薬剤師業務の評価体系の見直しが行われ、対物業務から対人業務へ大きく転換を迎えます。その為、多忙な業務の中で、対人業務の時間を創出するため、電子薬歴システムのバージョンアップは必須となり、いち早くファルマ一ツ谷薬局で2月21日(月)に入れ替えを行いました。

者情報を見ていたものが、一画面に集約されていて見やすい」「携帯アプリのLINE(ライン)を使った、患者様とのやり取りを活用していきたい」「薬品インタビュアリーが薬歴に反映しやすい」などの感想がありました。また事務職員からも「画面が明るくなった」「バックアップ・バージョンアップが自動になり楽になった」などの感想があり、薬剤師・事務職員ともに、業務改善を行うことが出来

ました。今後、改善でうまれた時間を有効に使い、患者様との対話を増やしていきます。



before



after

患者情報がすべてが一画面に

介護危機打開に向けての運動課題

藤代薬局 三上 菜美

3月12日(土)にZoomにて2021年度薬剤師中期研修・拡大薬剤師管理者研修が開催されました。今回は「エンドオブライフケアと人生会議」という議題で生協さくら病院の小林淳一先生に講義していただきました。

薬剤師中期研修・拡大薬剤師管理者研修

自分が自分らしく生きる

ファルマ弘前薬局 薬剤師 藤田 佳奈

エンドオブライフケアとは人生を完成させる時期に、よりよく生きることを与えることを言います。死に至る際に、自分が望む死を迎えるためには年齢やその時の健康段階に問わず、本人の価値観や人生目標、意向を理解し共有することが重要になるとのことでした。

死というどうしても触れにくい話題のため無意識のうちに避けてしまいがちです。しかし何が起るかわからない現代において、自分が自分らしく望んだように生きるためにも積極的に意思表示や考えをまとめておく大事さを学びました。



ファルマから多くの薬剤師が参加